

あ か だ ま す っ ぽ ん た け
アカダマスツポントケ

スツポントケ目/スツポントケ科/*Phallus hadriani* Vent.
 環境省絶滅危惧Ⅰ類

現在、日本において石狩海岸と斜里町の海岸でのみ発生が確認されている非常に希少なキノコ。

日本では明治40（1907）年に東京・小石川植物園で採取されて以来、長らく確実な報告がなされず、平成17（2005）年の石狩海岸での採取は実に98年ぶりでした。その後、平成26（2014）年に斜里町でも発見されました。

子実体（キノコの傘と柄の部分）は、初夏（6～7月）と秋（9～10月）の2回発生し、高さは20cmほどまで達します。子実体の基部には砂地深くに伸びる根状菌糸束を持ち、ハマニンニク、コウボウムギやハマニガナなど、多様な海浜植物の枯れ葉、枯れた茎などに絡み付き、さらに地下茎まで伸長します。子実体先端部の傘の部分は網目状で、グレバと呼ばれる焦茶色の粘液が付着しています。これは胞子の集まりで独特の臭いを放ちます。この臭いでハエを呼び、胞子を運んでもらいます。

（安田秀司）

- （1）北方菌類フォーラム（NPO法人）（2012）石狩砂丘と砂浜のきのこ
- （2）石狩浜海浜植物保護センター（2014）はまぼうふうフォトレター、7.
- （3）日本菌学会HP（2007）日本菌学会50周年記念大会セッションID: 60-C.



2009年7月29日
 撮影：石狩浜定期観察の会

